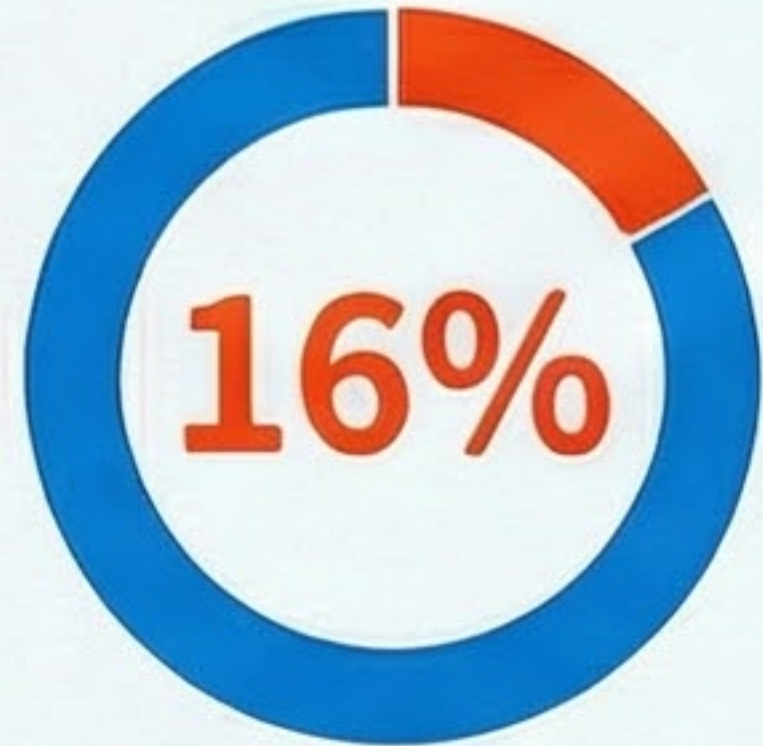


グローバル・イノベーション 2026：量から「精度」への歴史的転換



Top 100企業が「高強度AI発明」の16%を独占

世界のイノベーションエコシステムのごく一部であるこれら100組織が、最も強力なAI特許の大部分を握り、技術的覇権を強固にしています。

「規模 (Scale)」から「精度 (Precision)」へ

過去10年のトレンドだった特許数の爆発的増加は終わり、アイデアの戦略的な明確さと技術的な質が評価の基準となりました。

ハイプ (誇大宣伝) への解毒剤

言葉だけの「AI活用」ではなく、実際の特許データに基づく「実績 (Proof of Work)」のみが、真のイノベーターを決定します。

評価手法：イノベーションのアルゴリズム



トラック1：数量的通格性 (ゲートキーパー)

2000年以降500件以上の出願、かつ直近5年で100件以上の登壇という厳しい閾値で、一発屋や小規模組織をフィルタリングします。



トラック2：Derwent Strength Index (質のフィルター)

数量をクリアした後は、「数」ではなくポートフォリオのスコア中位値で評価。質の低い特許の乱雑はペナルティとなります。



質を測定する4つの主要指標



影響力 (influence)
他社からの引用回数。AI時代の「極端的革新」の指標。



成功率 (Success)
出願に対する特許の比率。R&D効率と内部層量プロセスの強力さを示す。



グローバル性 (Globalization)
主要特許庁 (日出輸出等) への出願数。その発明が世界市場で商業的価値を持つという指標。



希少性 (Rarity)
技術分野のユニークさ、画期的な発明か、ブレークスルーかを測定。

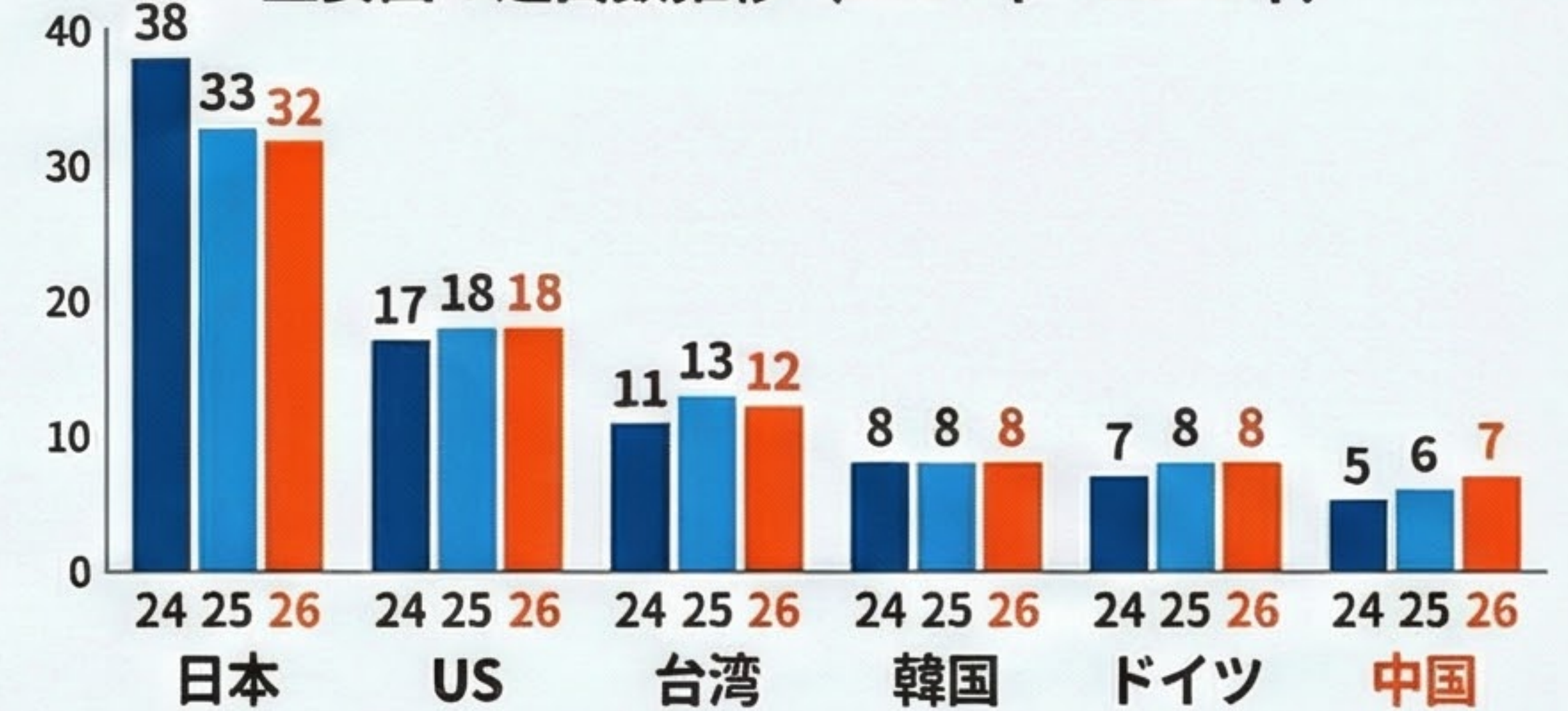


米国は「システム」、欧州は「伝統的牙城」で勝負
米国：18社 - システム設計
欧州：強8社・仏5社 - 自動車・航空宇宙

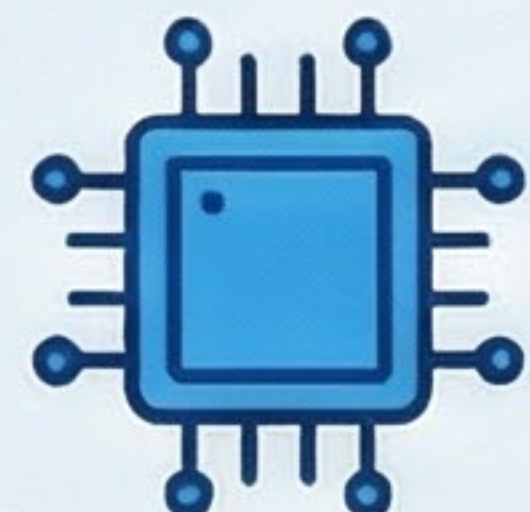
日本、台湾、韓国、中国を中心とした東アジアが、世界のハードウェアおよび産業用R&Dの重心となっています。

中国本土 (7社) の「量から質へ」の結実 (ハードウェアの深層部へ進出)

主要国の選出数推移 (2024年～2026年)



日本企業：32社の巨人たちと4つのクラスター



クラスターA：
エレクトロニクス&半導体
ソニー (16回連続)、キオクシア、東京エレクトロン、SCREENなど、世界のデジタル基礎を支える企業群。



クラスターB：
自動車産業の変革
全国体電連で圧倒的なトヨタ、eVTOLのホンダ、アイサイトで再選出したSUBARUなど。



クラスターC：
重工業・ロボティクス (物理層のAI)
ファナック (超精密加工AI)、三菱電機 (Maisart)、コマツ (自動運転建機) など。



クラスターD：
先端素材・化学 (チョークポイント)
信越化学 (ウェハー)、住友化学、AGC (ガラス) など、代わりのきかない素材供給者。